

令和6年(2024年)プレス災害発生状況

令和7年(2025年)1月末現在

1. 地区別

	20年～24年	25年～29年	30年～R4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計	比率
燕地区	70	53	63	11	10				21	63.6%
燕	55	32	45	7	10				17	51.5%
(吉田)	13	16	12	3	0				3	9.1%
(分水)	1	2	1	0	0				0	0.0%
弥彦	1	3	5	1	0				1	3.0%
三条地区	39	19	26	7	5				12	36.4%
三条	29	11	26	7	5				12	36.4%
(栄)	7	6	0	0	0				0	0.0%
(下田)	3	2	0	0	0				0	0.0%
加茂地区	4	5	8	0	0				0	0.0%
加茂	3	3	4	0	0				0	0.0%
田上	1	2	4	0	0				0	0.0%
見附地区	1	0	2	0	0				0	0.0%
合計	114	77	99	18	15				33	100.0%

2. 事業場規模別

	20年～24年	25年～29年	30年～R4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計	比率
1～9人	38	33	34	5	6				11	33.3%
10～29人	44	24	45	6	7				13	39.4%
30～49人	13	6	7	2	0				2	6.1%
50人以上	19	14	13	5	2				7	21.2%
合計	114	77	99	18	15				33	100.0%

3. プレス機械の種類等

種類	20年～24年	25年～29年	30年～R4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計	比率
ポジティブクラッチ	44	26	25	5	4				9	27.3%
フリクションクラッチ	46	35	54	7	9				16	48.5%
液圧プレス	9	5	1	2	0				2	6.1%
プレスブレーキ	12	9	11	2	2				4	12.1%
その他のプレス	3	2	8	2	0				2	6.1%
合計	114	77	99	18	15				33	100.0%
起動方式										比率
両手操作	11	8	13	1	0				1	3.0%
片手操作	4	1	2	0	0				0	0.0%
足踏み操作	97	67	83	17	14				31	93.9%
その他	2	1	1	0	1				1	3.0%
合計	114	77	99	18	15				33	100.0%

4. 安全措置状況

	20年～24年	25年～29年	30年～R4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計	比率
(状態として)安全措置あり	安衛則第131条第1項措置	24	10	7	2	3			5	11.6%
	安全囲い	13	6	4	2	2			4	9.3%
	安全金型	0	0	0	0	0			0	0.0%
	専用プレス	0	0	1	0	0			0	0.0%
	自動プレス	5	1	2	0	1			1	2.3%
	安全プレス	6	3	0	0	0			0	0.0%
	安衛則第131条第2項措置	61	46	103	14	19			33	76.7%
	ガード式	3	1	12	1	0			1	2.3%
	両手操作式(FC)	2	2	21	2	8			10	23.3%
	両手起動式(PC)	2	3	7	0	1			1	2.3%
	光線式	34	35	52	9	8			17	39.5%
	手引き式	4	0	1	0	1			1	2.3%
	手払い式	11	3	5	0	0			0	0.0%
	PSDI	0	0	0	0	0			0	0.0%
手工具	5	2	5	2	1			3	7.0%	
安全措置なし	40	7	14	4	1			5	11.6%	
合計	125	63	124	20	23	0	0	0	43	100.0%

注・1台に複数の安全装置がされている場合も含む。安全装置があり、「不使用」「切」「調整不良」も「安全措置あり」に含む。

5. 作業の種類

	20年～24年	25年～29年	30年～R4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計
定常作業(抜き・切断・曲げ・絞り等)	89	63	85	16	14				30
非定常作業(金型取り外し等)	25	14	14	2	1				3

6. 災害発生原因

	20年～24年	25年～29年	30年～R4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計	比率
不安全な状態	安全装置なし	16	14	15	4	10			14	31.1%
	プレス機械の故障等	1	3	1	1	0			1	2.2%
	安全装置の故障	1	2	1	0	0			0	0.0%
	安全装置の不備(調整不良)	25	18	17	3	3			6	13.3%
	作業方法の欠陥	41	13	25	1	1			2	4.4%
	その他	8	4	2	1	1			2	4.4%
	合計	92	54	61	10	15				25
不安全な行動	安全装置を無効にする	41	24	35	10	5			15	33.3%
	安全措置の不履行	19	12	19	0	3			3	6.7%
	その他(金型の取付・取外・調整を含む)	30	11	10	0	2			2	4.4%
	合計	90	47	64	10	10				20
合計	182	101	125	20	25				45	100.0%

(注) 不安全な状態と行動は両方該当する場合も記入してある。(災害発生件数と一致しない。)

(注) ○印の数字は死亡者数を表す。

【プレス災害発生状況】(プレスの種類で、FCプレスは、フリクションクラッチプレス、PCはポジティブクラッチプレスと種類を略称している。)

- R6. 3 PCプレスにて、曲げ加工中、型に引っ掛かった材料を取り出す際に、誤ってフットスイッチを踏んでしまい負傷した。手引き式安全装置があるも使用はなく、材料の取り出しに手工具(木の棒)を使うこととしていたが使用していなかった。
- R6. 4 FCプレスにて、曲げ加工中、材料を金型にセットし、金型から手を引く際にフットスイッチを踏んでしまい負傷した。光線式安全装置を無効とし、両手操作式(FC)安全装置も使用していなかった。
- R6. 4 PCプレスにて、抜き作業中、右手が危険限界に入っているのに気付かずフットスイッチを踏んでしまい負傷した。囲いはなく、両手操作式(PC)安全装置も備えられていたが使用していなかった。
- R6. 4 プレスブレーキにて、曲げ加工中、左手で部品の脇を掴み、危険限界に入っているのに気付かずフットスイッチを踏んでしまい負傷した。安全装置は付いていなかった。
- R6. 6 FCプレスにて、帯状の材料の抜き加工中、最後の抜きを行う際に、右手が危険限界に入っているにも関わらずフットスイッチを踏み負傷した。囲いはなく、光線式安全装置を無効とし、両手操作式(FC)安全装置も使用していなかった。
- R6. 6 PCプレスにて、曲げ加工中、材料をセットする際に右手が危険限界に入っており、フットスイッチを踏んでしまい負傷した。安全囲いを設けていたが、手が危険限界へ入る状態であった。
- R6. 7 FCプレスにて、抜き作業中、抜き終わった材料を金型から外す際にフットスイッチを踏んでしまい負傷した。光線式安全装置を使用していたが、調整不良により検知されなかった。
- R6. 7 PCプレスにて、曲げ作業中、手が危険限界に入っているにも関わらずフットスイッチを踏んでしまい負傷した。通常は手工具を用いて作業を行っているが、災害発生時には手工具を使っていなかった。
- R6. 9 FCプレスにて、曲げ作業中、材料を右手でセットした際に、フットスイッチを踏んでしまい危険限界に入っていた右手を負傷した。光線式安全装置を使用していたが、調整不良により検知されなかった。
- R6. 10 FCプレスにて、絞り作業中、フットスイッチを踏んでしまい絞り金型にあった右手を負傷した。通常は光線式安全装置と両手操作式(FC)安全装置を使用しているが、光線式安全装置を無効としフットスイッチを使用していた。
- R6. 10 FCプレスにて、抜き加工中、抜き終わった部品を取り出す際に、フットスイッチを踏んでしまい危険限界に入っていた左手を負傷した。両手操作式(FC)安全装置が備えられていたが使用していなかった。
- R6. 10 FCプレスにて、抜き加工中、材料を右手でセットした際にフットスイッチを踏んでしまい、光線式安全装置に検知されずに右手を負傷した。両手操作式(FC)安全装置が備えられていたが使用していなかった。
- R6. 10 FCプレスにて、抜き加工中、材料をセットすると同時にフットスイッチを踏んでしまい負傷した。光線式安全装置を無効とし、両手操作式(FC)安全装置が備えられていたが使用していなかった。
- R6. 11 プレスブレーキにて、曲げ加工中、製品を持っている右手が危険限界に入り、フットスイッチを踏み負傷した。光線式安全装置を無効とし、両手操作式安全装置が備えられていたが使用していなかった。
- R6. 12 自動プレスにて、金型の調整中に作業者の右肘がプレスの寸動スイッチに当たり左手が挟まれ負傷した。